

みなつきつこもりおおほらへ
六月晦大祓 十二月之に准らふ

集侍はれる、親王、諸王、諸臣、百官人達諸聞召せと宜る。天皇が朝廷に仕へ奉る、比礼挂くる伴男、手襷挂くる伴男、鞆負ふ伴男、劔佩く伴男、伴男の八十伴男を始めて、官々に仕え奉る人達の、過ち犯しけむ雑々の罪を、今年の六月晦の大祓に、祓ひ清め給ふ事を、諸聞召せと宜る。高天原に神留まります。皇親神漏岐神漏美の命以ちて、八百万の神等を神集ひに集ひ賜ひ、神議りに議りたまひて、我皇御孫命は、豊葦原の水穂国を、安国と平けく知しめせと事依し奉りき。斯く依し奉りし国中に、荒ぶる神等をば、神問はしに問はし賜ひ、神拂ひに拂ひ賜ひて、言問ひし磐根樹根立、草の片葉をも言止めて、天の磐座放ち、天の八重雲を嚴の千別きに千別きて、天降し依し奉りき。斯く依し奉りし四方の国中と、大倭日高見国を、安国と定め奉りて、下津磐根に宮柱太敷き立て、高天原に千木高知りて、皇御孫命の瑞の御殿へ奉りて、天の御蔭、日の御蔭と隠りまして、安国と平けく知しめさむ。国中に成り出でむ、天益人等が、過ち犯しけむ雑々の罪事は、天津罪とは、畦放ち、溝埋め、樋放ち、頻蒔き、串刺し、生剥ぎ、逆剥ぎ、屎戸、幾許の罪を天津罪と宣りわけて、国津罪とは、生膚断ち、死膚断ち、白人胡久美、己が母犯せる罪、己が子犯せる罪、母と子と犯せる罪、子と母と犯せる罪、畜犯せる罪、昆虫の災、高津神の災、高津鳥の災、畜仆し、蠢物せる罪、幾許の罪出でむ。斯く出でば、天津宮事以ちて、大中臣、天津金木を、本打切り、末打断ちて、千座の置座に置足らして、天津菅麻を、本刈断ち、末刈切りて、八針に取辟きて、天津祝詞の太祝詞事を宣れ。斯く宣らば、天津神は、天の磐門を押し披きて、天の八重雲を、嚴の千別きに千別きて聞し召さむ。国津神は、高山の末、短山の末に上りまして、高山のいほり、短山のいほりを撥き分けて聞し召さむ。斯く聞しめしてば、皇御孫命の朝廷を始めて、天下四方の国には罪と云ふ罪は在らじと、科戸の風の、天の八重雲を吹き放つ事の如く、朝のみ霧夕のみ霧を、朝風夕風の吹き掃ふ事の如く、大津辺に居る大船を、舳解き放ち、艫解き放ちて、大海原に押し放つ事の如く、彼方の繁木が本を、焼鎌の敏鎌もて、打ち拂ふ事の如く、遺る罪はあらじと、祓ひ給ひ清め給ふ事を、高山の末、短山の末より、さくな垂りに落ち、沸つ速川の瀬に坐す、瀬織津姫と云ふ神、大海原に持ち出でなむ。斯く持ち出で往なば、荒塩の塩の八百道の八塩道の、塩の八百会に坐す、速開津姫と云う神、持ちかか呑みてむ。斯くかか呑みてば、氣吹戸に坐す氣吹戸主と云ふ神、根国底国に氣吹き放ちてむ。斯く氣吹き放ちてば、根国底国の坐す速佐須良姫と云ふ神、持ちさすらひ失ひてむ、斯く失ひてば、天皇が朝廷に仕え奉る、官々の人たちを始めて、天の下四方には、今日より始めて、罪と云ふ罪はあらじと、高天原に耳振立てて聞く者と、馬牽き立てて、今年の六月の晦日の夕日の降の大祓に、祓ひ給ひ清め給ふ事を、諸聞し召せと宜る。四国の卜部等、大川道に待ち退りて祓ひ却れと宜る。

六月末日の大祓 十二月もこれと同じ

今日の儀式にお集まりになった親王様、皇族方、諸大臣達、その他朝廷の各役人方、これより申上げる事をお聞き下さい。天皇が主宰なさる朝廷にお仕えする言霊原理の奉持者、原理の活用による政策立案者、政策を法令化する人達、その法令をもつて一般国民に接する役人達、その他大勢の役職にある者達を始めとして役所に務めるその他の人達が、政治上また日常に犯した種々の罪穢を、今年六月末の大祓によつて赦い清めますから、皆謹んでお聞きなさい。数千年乃至一万年の昔、太古と呼ばれる時代に地球上の高原地帯に於て人間の心と言葉の究極の原理を発見し、後世神漏岐・神漏美の命と神話で呼ばれるようになった私達日本人の大先祖に当る方が、大勢の言霊原理の自覚者を一堂に集め、相談した結果、言霊原理を第一次的、その原理に基づいて事物に名を付けることを第二次的、その言葉に相応しい合理的な社会を第三次的な芸術として理想の社会・国家を建設する責任者（神話で邇々芸命と呼ぶ）を地球上の平坦地、日本の土地に派遣し、言霊原理に則つた平和な国家を創建せよ、と命令したのです。またその日本の地に下つて行つたなら、その地に以前から「我よし」の力を振う人々を正当で合理的な言葉の論理で説得し、彼等が主張する間違つた論理や感情論を一切説破して、天降つた聖達が自覚している心の先天構造の真理を発表し、その先天構造から現出する社会創造の政策を宣布するように委任し、命令したのでした。この様に委任されました邇々芸命という日本の肇国者であり世界人類文明の創始者は世界の国々とのこの日本の国とを平定し、人間天与の精神支柱を言霊アオウエイと確認し、その上で人類文明創造の原理として言霊アイエオウを高く掲げた政治の庁を創建し、この日本の国を世界の高原として言霊原理の道理そのままの政治機構を建てたのでした。また日本朝廷の創建者邇々芸命の天津日嗣を受け嗣ぐ代々の天皇（スメラミコト）の神聖な朝廷にお仕えする人たちは政治の原理として言霊布斗麻邇を奉載し、その原理を数霊を以て正確に活用・運用することによつて日本国と世界の国々を、現代の各民族の神話が「神代」と呼んでいる五千年の長い年月の間、平穩無事に治め、人類の第一精神文明の時代を創造したのです。

時は移り、人類の第一精神文明の時代は終わり、物質科学研究を目的とする人類の第二物質科学文明時代に入ります。この時代の目的追及を促進するための方便として第一精神文明の中心法則であつた言霊原理は社会から隠没されました。そのため年月の経過と共に日本と世界の国々との中に於いて「生めよ殖えよ地に満てよ」と増加する人々の中に種々の罪が発生して行きます。それらの罪の中で五十首の言霊法則を乱す形而上の罪とは畦放ち、溝埋め、樋放ち、頻蒔き、串刺し、生剥ぎ、逆剥ぎ、屎戸等のものであり、他人や社会に迷惑をかけ秩序を乱す形而下の罪として生膚断ち、死膚断ち、白人胡久美、己が母犯す罪、己が子犯す罪、母と子犯す罪、子と母犯す罪、獣類を犯す罪、蝗大量発生いんとうの罪、不浄霊能力の罪、人を迷わす言葉の罪、獣を殺し、禁厭まじがひをする罪等々の罪が発生して来るであります。そして第二物質科学文明の終末期には、世の中に人々の罪が満ち溢れ、社会の混乱が收拾つかない程に立ち至ることでしょう。

そういう事態になった時には、日本の朝廷に於ては言霊の原理に則り、第二物質文明時代の指導精神原理である天津金木音図の構造を解体して生命本然の構造に見合うよう変換し、また人間が生来付与されている大自然の心の構造である天津菅麻音図を解体して真の文明創造の原理にはならない事を確認し、その上で人類文明創造の大法である天津太祝詞音図の手法タカマハラナヤサに宣り直して見なさい。そうするならば、第一精神文明時代にあつたと同様の言霊布斗麻邇に基づく世界の政庁・法庁・教庁である御稜威耀く日本の朝廷が再び世界人類の上に創建され、その朝廷に於て政治を行う人たちは五十音言霊の秘法を宣布・活用して、世の建直しの政策を立て、次々に世界に発令・伝達する事に務めるようになり、その政治の恩恵を受ける国々の国民は、言霊原理に基づく政策を、原理を自覚できない人々にも理解することが出来る言葉に書き直した法令によって理解・得心して喜んで新しい時代の生活を楽しむ事となるでしょう。

このような新しい人類の第三文明時代が創造されて行きますと、天津日嗣天皇の朝廷を始め世界の国々には、文明創造の原理の光に包まれて罪という影はすべて消えてしまい、心の構造の原理に基づいた世界政治の政策が次々に発令され、言霊父韻の法則を見事に使い分けた判断が世の中の暗黒を吹き掃って、第二文明時代には使用されなかつた天津太祝詞音図という大船の原理が世界の人々を乗せて第三文明創造の大航海に乗り出すこととなり、世界を覆っていた複雑怪奇な思想理論が言霊原理の先天と後天の明快な構造理論によって整理されて行きます。こう言われる如く世界の人々の罪という罪は消えて無くなってしまふように日本の朝廷の政治は行われますが、そのやり方は次の様なものであります。

天津太祝詞音図の母音はアイエオウと並びます。そのアの位にいます天津日嗣天皇から文明創造に十分な内容を持つ命令が下りますと、その位の次のイ段に位する五十音言霊図を自覚する人々（瀬織津姫）によって沙庭・検討され、社会への発令が決定されます。すると次のエ段に位する役目の人々（速開津姫）は、時々刻々と移り変わる世界の情勢に適合するように命令の内容・発令の時期等が充分納得出来るまで検討・決定されます。次に言霊才の段階（気吹戸主）に移され、命令は一般国民が理解し易い法令・法則に書き直され、社会に発表・伝達されます。最後の言霊ウの段階にいる世界の大衆（速佐須良姫）はその人情溢れる細やかな配慮の法律の下に、新時代の生活を楽しみ、安楽な生計を営むことが出来ます。法律は何時しかその目的を達すると忘れ去られます。そうなる前に時宜に適した次の法律が発令されることとなります。

政治の状況がこの様に澱みない時代となりますと、天津日嗣の朝廷にお仕えする官職にある人々を始めとして、世界の四方の国には、罪という罪は人類文明創造の光の中にすべて消え去りますから、高天原の朝廷の天の斑馬と言われる天津太祝詞音図を斉しく称えながら、今年の六月末日の夕日の入日の大祓の清めの言葉を皆さん、謹んでお聞きなさい。都の四方の国の大祓の儀式の責任者もそれぞれの地方にこの趣旨を持ち帰って人心の滞りない様務めなさい。